令和５年度姶良・伊佐地区研究協力校「道徳教育」

霧島市立陵南小学校道徳教育研修会

1　研究主題

⑴　**地区研究主題**

「考え，議論する道徳」に向けた授業の在り方

⑵　**会場校研究テーマ**

進んで自分の意見をもち，互いに分かりやすく伝え合う児童の育成

～道徳科における主体的・対話的で深い学びをめざして～

2　研究発表

霧島市立陵南小学校では，令和４年度から２年間にわたり，地区指定研究協力校として，研究・実践に取り組んできました。研究発表では，教師用発問カードやアンケートの効果的な活用による「『自分だったら？』と考えられる発問の工夫」，問いかけ名人カードやＩＣＴの効果的な活用等による多様な考えに触れる交流の場づくりとしての「対話活動の工夫」，振り返りシートの活用等による今までの自分とこれからの自分について考える「振り返りの場の充実」についての紹介がありました。また，交流タイムによる対話活動において，ねらいとする価値について多様な考えをもつことができた実践が紹介されました。

3　研究授業

２年生と５年生の２学年で研究授業を行いました。

２年生では，出口薫子教諭が「お月さまとコロ」の教材を使って授業を行いました。教師用発問カードを使い，児童から多様な考えや気持ちを引き出すことができるよう発問を工夫されていました。また，気持ちカードを活用し，視覚的に自分の考えを表現させることで，活発な意見の交流を行うことができました。

【２年生の授業の様子】

５年生では，有村元希教諭が「ほんとうの自由」の教材を使って授業を行いました。事前アンケートをテキストマイニングで可視化し，導入のスリム化や自分事として捉える工夫を行っていました。また，タブレットを活用した交流活動を行うことで，自分の考えを基に友達の多様な考えに触れ，考えを深めることができました。

【５年生の授業の様子】

4　分科会

分科会では，２年生と５年生に分かれ，授業研究・研究協議を行いました。授業研究では，会場校研究テーマに沿って，「対話活動や振り返りの充実」について，また，「自分事として道徳的価値を理解するための発問の工夫及びアンケートの効果的な活用」について意見交換を行いました。研究協議では，地区研究主題である「考え，議論する道徳」の充実に向けて，各学校の取組や日頃の授業の工夫等について，グループで意見交換を行いました。授業研究・研究協議の中で出された意見の主な内容は，以下のとおりです。

【２年生分科会】

○　事前にアンケートを行うことは，学習内容を把握し，課題をより自分事として考えさせる手立てとして有効である。

○　振り返りシートの活用は，新たに見付けた考えやもっと考えたいこと，友達の考えや自分の学び方について振り返ることができた。

○　対話的活動を活発にさせるためには，書く時間をしっかりと確保し，自分の考えをもった上で友達と意見交換をすることが必要である。

【５年生分科会】

○　テキストマイニングを個人，全体で共有し，キーワードに印を付けたり分析したりすることで，より道徳的価値に近付くことができた。

○　問いかけ名人カードを活用した交流場面では，タブレットを活用することで対話活動の活性化を図ることができた。

○　授業でタブレットを効果的に活用するためには，時間配分を意識した授業の組み立てを行う必要がある。

【陵南小の特徴的な取組】

自分事として考えを深めるための「発問カード」の活用

発問カード(教師用)　　　年　組

○ **理由(動機)を問う**・・・「どうしてそうしますか」
「～と言えたのはなぜでしょう」
○ **経験を問う**・・・「同じようなことはなかったかな」
○ **価値を問う**・・・「大切なことはなんでしょう」
○ **置き換えて立場を問う**・・・「もし自分だったら～と言えますか（できますか）」
「それはなぜですか」
○ **将来の結果を問う**・・・「その結果どうなるのかな」
「何がよくなるのですか」
○ **可逆性を問う**・・・「自分がそうされてもよいですか」
○ **普遍性を問う**・・・「いつ，どこで，誰に対してもそうしますか」
○ **互恵性を問う**・・・「それで，みんなが幸せになれますか」

教師の発問によって，児童の問題意識や疑問などを生み出し，多様な感じ方や考え方を引き出すことができるように，教師用発問カードを活用し，児童が「自分だったら？」と自分事として考えることができた。

また，「発問カード」の活用により，教師自身が発問を精選することができ，道徳的価値に迫る発問を行うことができた。